

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年2月25日(2016.2.25)

【公表番号】特表2015-508670(P2015-508670A)

【公表日】平成27年3月23日(2015.3.23)

【年通号数】公開・登録公報2015-019

【出願番号】特願2014-550801(P2014-550801)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/04 (2006.01)

A 6 1 B 17/16 (2006.01)

A 6 1 B 17/56 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/04

A 6 1 B 17/16

A 6 1 B 17/56

【手続補正書】

【提出日】平成28年1月6日(2016.1.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置であって、
当該装置は：

骨係合針推進アセンブリを有し、該骨係合針推進アセンブリは、骨係合針を含み、かつ、関節鏡視下の切開を通して、第一の骨位置において患者の骨と係合する、関節鏡視下での挿入に適合しており、かつ、前記骨を通過する概して弧状のトンネル形成経路に沿って、少なくとも第二の骨位置へと、前記針を前方へ推進させるように適合しており；

骨係合ピン推進アセンブリを有し、該骨係合ピン推進アセンブリは、前記骨係合針推進アセンブリに作動可能なように係合するように構成され、かつ、前記関節鏡視下の切開を通して、第三の骨位置において患者の骨と係合する、関節鏡視下での挿入に適合している、

前記関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置。

【請求項 2】

前記骨係合ピン推進アセンブリが、それに縫合糸を取り付けるのに適合しており、かつ、前記縫合糸が前記第二の骨位置において前記針によって係合され得るように、該縫合糸を位置決めするのに適合している、請求項 1 に記載の関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置。

【請求項 3】

前記骨係合針推進アセンブリはまた、前記縫合糸に係合した前記針を、前記第二の骨位置から、前記骨を通過する前記弧状のトンネル形成経路に沿って、戻して引っ込めるのに適合している、請求項 2 に記載の関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置。

【請求項 4】

前記骨係合ピン推進アセンブリが、少なくとも 1 つの骨トンネル形成ピンを有し、該骨トンネル形成ピンは、概して直線状のトンネル形成経路に沿って前記第三の位置から前記第二の位置へと前記骨にトンネル形成するよう作動可能であり、前記第二の位置において

、前記概して直線状のトンネル形成経路が前記概して弧状のトンネル形成経路と交わり、それによって、前記第二の骨位置において前記縫合糸が前記針によって係合され得るように、該縫合糸を位置決めする、請求項 2 または 3 に記載の関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置。

【請求項 5】

前記の骨係合ピン推進アセンブリが、前記の骨係合針推進アセンブリから分離しており、かつ、該骨係合ピン推進アセンブリが、選択可能にそれに係合可能でありかつそれから脱係合可能である、請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載の関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置。

【請求項 6】

前記骨係合ピン推進アセンブリが、内側のピンを有し、かつ、外側の中空のピンを有し、該外側の中空のピン内に、前記内側のピンがスライド可能に配置されている、請求項 1 に記載の関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置。

【請求項 7】

前記外側の中空のピンが、尖った先端部と、貫通する孔とを持っているように形成されている、請求項 6 に記載の関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置。

【請求項 8】

縫合糸が、前記内側のピンと前記外側のピンとの間で延びており、前記縫合糸が、前記貫通する孔を通して、前記針による係合が可能となるように、前記外側のピンの内側で、前記内側のピンの周りにループ状になっている、請求項 7 に記載の関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置。

【請求項 9】

前記骨係合ピン推進アセンブリがまた、前方部分および後方部分を含むベースアセンブリを有し、前記内側のピンが前記後方部分に結合され、前記外側のピンが前記前方部分に結合されている、請求項 7 に記載の関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置。

【請求項 10】

前記外側の中空のピンは、また、前記縫合糸の一部を収容するための貫通する側壁スロットを持っているように形成されている、請求項 8 または 9 に記載の関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置。

【請求項 11】

前記縫合糸が、

前記内側のピンの前方端部と前記尖った先端部との間において、前記内側のピンの前記前方端部の周りに巻かれ、かつ、前記内側のピンと前記外側のピンとの間で延び、かつ、前記内側のピンの両側において、前記貫通するスロット内に部分的に位置している、請求項 10 に記載の関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置。

【請求項 12】

前記ベースアセンブリが、ハウジングに対して選択可能にロック可能であり、該ハウジングは、前記骨係合針推進アセンブリの一部を取り囲んでいる、請求項 9 ～ 11 のいずれか一項に記載の関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置。

【請求項 13】

前記ベースアセンブリの前記前方部分および前記後方部分が、互いに対して選択可能にロック可能であり、かつ、互いに対して軸方向にスライド可能であり、それによって、前記外側のピンに対する前記内側のピンの引っ込みが制限されている、請求項 9 ～ 12 のいずれか一項に記載の関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置。

【請求項 14】

前記骨係合針推進アセンブリが、フレキシブルな針推進片を含み、該推進片は、前記骨を通過する前記弧状のトンネル形成経路に沿って前記骨係合針を推進する、請求項 1 ～ 13 のいずれか一項に記載の関節鏡視下での骨トンネル形成および縫合を行う装置。